

コミレスを広げるために 必要な中間支援組織の活動



コミレスネットワーク北海道代表
伊藤 規久子

前身は 「北海道コミュニティ・レストラン研究会」

「コミレスネットワーク北海道」を設立したのは2009年1月であるが、その前身となったのは、2003年3月に設立した「北海道コミュニティ・レストラン研究会」(代表:伊藤規久子)の活動である。私は、(特非)NPO研修・情報センター(代表理事:世古一穂氏)が主催する「協働コーディネート養成講座」を受講する中で、同センターが取り組む「コミュニティ・レストランプロジェクト」を知り、大いに共感した。自分でもコミレスを実践したい、また、より多くの人にコミレスを知ってもらいたいという思いで、仲間と共に「北海道コミュニティ・レストラン研究会」を設立した。以後、(特非)NPO研修・情報センターと連携を取りながら、毎年、北海道内でコミレス公開講座を開催し、コミレスの普及・啓発に取り組んできた。また、要請があれば、コミレス立ち上げに至るまでのサポート事業にも取り組んできた。

北海道で大きく広がるコミレス

コミレスを普及・啓発する活動の成果として、コミレス公開講座の受講生からコミレス実践に取り組み個人・団体が現われてきた。

2003年6月に「野の花」(札幌市豊平区、運営主体:野の花)、2004年3月に「西野厨房たんらん」(札幌市西区、運営主体:(特非)ぐるーぽ・ぴの)、2004年5月に「地域食堂」(釧路市、運営団体:(特非)わたぼうしの家)がオープンした。また、「地域食堂きずな」(石狩市、運営団体:企業組合地域食堂きずな、2007年10月オープン)のように、コミレス立ち上げサポート事業から生まれたいコミレスもある。さらに、これらのコミレス実践に触発されコミレスを始める例も多く出てきた。現在、北海道内には、「コミレスネットワーク北海道」が把握している範囲で24件のコミレス実践例がある。コミレスは全国的に広がっているが、その中でも北海道は特に大きな広がりを見せている。地域に密着した中間支援組織の活動が北海道内のコミレスの広がりにつながったと感じている。

「コミレスネットワーク北海道」の活動と今後の課題

「コミレスネットワーク北海道」(代表:伊藤規久子)は、北海道内で大きく広がるコミレスに対応



コミレス「地域食堂かえて」(北海道北広島市)で開催されたコミレス公開講座(2010年8月1日)

コミレスを広げるために 必要な中間支援組織の活動

しようと、2009年1月、コミレス実践者5名で設立した。会の目的は、「コミレスのコンセプト・社会的役割に賛同する個人・団体の人的交流と情報共有を進め、お互いを支えあい協働することでコミレスの実践を社会の中で普及・発展させていくこと」である。

コミレスを立ち上げる個人や団体は増えてきたが、コミレス実践は緒に就いたばかりで、各コミレスは様々な課題を抱えている。特に、財務面での課題は大きい。北海道内のコミレスの多くはまだボランティア活動に頼っている部分が多く、経営基盤は脆弱である。料理や飲み物もまだ素人の域を出ていないところが多い。コミレス事業を継続・発展させていくためには、今後、NPOのマネジメン能力に加え、プロとして飲食店を運営していく能力を向上させる必要がある。

現在、「コミレスネットワーク北海道」は、コミレスの普及・啓発事業、コミレス立ち上げサポート事業に加え、コミレス実践者が抱える課題解決のための事業（事例報告会、コミレス見学ツアー、メーリングリストの運営、参加型HPの運営など）にも試行錯誤で取り組んでいる。また、北海道内にはコミレスとは名乗っていないが、コミレスと同様のコンセプトで運営されている店が多く存在している。調査事業等を通して、それらの店やグループとのネットワーク構築に取り組んでいきたいと考えている。

全国各地域に「コミレスネットワーク北海道」と同様な地元に着した中間支援組織が生まれ、それらの中間支援組織とネットワークを構築しながら、協働でコミレスを社会の中に定着させていきたいと願っている。

北海道内のコミレス紹介

北海道のコミレスは、数だけでなく、テーマや展開の形も多様である。「地域食堂ゆめみ〜る」（登別市、運営主体：（特非）ゆめみ〜る、2008年11月オープン）は、連合町内会の有志が、町内会活動だけでは地域福祉には限界があると考え、NPO法人を設立してオープンしたコミレスである。「高齢者サロン」と「子育てサロン」を開催しているが、今年から学童保育にも取り組み始めた。「芽室町図書館喫茶コーナー」（芽室町、運営主体：（特非）めむの杜、2009年10月オープン）は、人との関わりに困難さを抱える若者の就労支援を目指している。

「グランマ」（白老町、運営主体：麻の会、2009年4月オープン）は、スタッフの平均年齢が72歳で、高齢者の知識と生活技術を活かし、地元で取れる山菜料理を提供している。

常設ではないが、定期的にコミレスを実践している事例もある。「地域の茶の間」(苫小牧市、運営主体：（特非）がるだする、2009年5月スタート)は町内会館を利用して料理教室も兼ねた月1回のコミレスに取り組んでいる。前述の「芽室町図書館喫茶コーナー」を運営する(特非)めむの杜は地元の食材をクローズアップする「産直コミレス」を定期的に開催し、今年10月には空き店舗を活用して1ヶ月の「実験コミレス」を開催する予定である。「地域食堂かえで」(北広島

市、運営主体：ワーカーズコレクティブ地域食堂かえで、2009年5月オープン)のように、毎月の「実験コミレス」を2年間継続するうちに、離れを店舗に提供したいという地域の高齢者から申し出があり、オープンしたコミレスもある。

私は、現在、余市町で民宿を併設したコミレス「余市テラス」(余市町、運営主体：伊藤真人、2008年2月オープン)を夫と運営している。「コミレスネットワーク北海道」の事務局として、「コミレスネットワーク全国」等と協働し、コミレス活動を展開している。

